

### Ⅲ ふるさとまちづくりアンケート

### Ⅲ ふるさとまちづくりアンケート

#### 1 調査の概要

##### (1) 調査の目的

盛岡市に理解のある市外在住者のこれからの盛岡市のまちづくりや将来像などに関する意見を把握し、その結果を新しい盛岡市総合計画に反映させることを目的としています。

##### (2) 調査の設計

- ① 調査対象 盛岡市外に在住する次の者のうち抽出された人
  - ・みちのく盛岡ふるさと大使
  - ・東京盛岡ふるさと会会員
  - ・在京盛岡広域産業人会会員（盛岡）
- ② 標本数 300人
- ③ 調査方法 無記名式の質問紙調査。郵送による配布・回収
- ④ 調査期間 平成25年8月30日から9月20日まで（集計対象9月30日）

##### (3) 調査の内容

設問	調査項目
問1	盛岡市の現況（優れているところ）
問2	盛岡市の現況（力を入れていくところ）
問3	盛岡市の将来像
問4	考慮すべき社会の動向
問5	まちづくりへの提言（記述式）

##### (4) 回収結果

対象者数	有効回収数	回収不能数	有効回収率
300人	118人	182人	39.3%

## (5) 報告書の見方

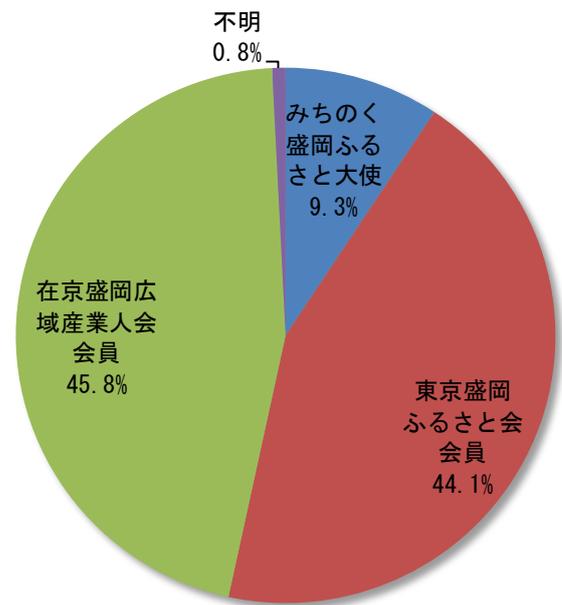
- ① 比率（％）は、各設問の回答者数を基数として算出しています。
- ② 集計結果はすべて、小数点第2位を四捨五入しています。
- ③ 設問は全て複数回答を依頼していますので、比率の合計は100.0%を超えます。
- ④ 依頼回答数を超える回答など、設問の依頼形式に沿わない回答は無効としています。
- ⑤ 無回答・無効は合わせて不明として表示しています。
- ⑥ 前回調査比較の図表は、平成15年7月に実施したアンケート調査との比較です。  
前回調査と今回の調査では、調査対象者数、回収率は異なりますが、設問内容は同様に行っています。

(参考 平成15年7月に実施したアンケート調査結果)

対象者数	有効回収率
167人	50.3%

2 調査回答者  
内訳

内訳	回答者数 (人)	構成比 (%)
みちのく盛岡 ふるさと大使	11	9.3
東京盛岡ふる さと会会員	52	44.1
在京盛岡広域 産業人会会員	54	45.8
不明	1	0.8



### 3 調査結果

(1) 盛岡市の現況について (問1、2)

① 優れているところ

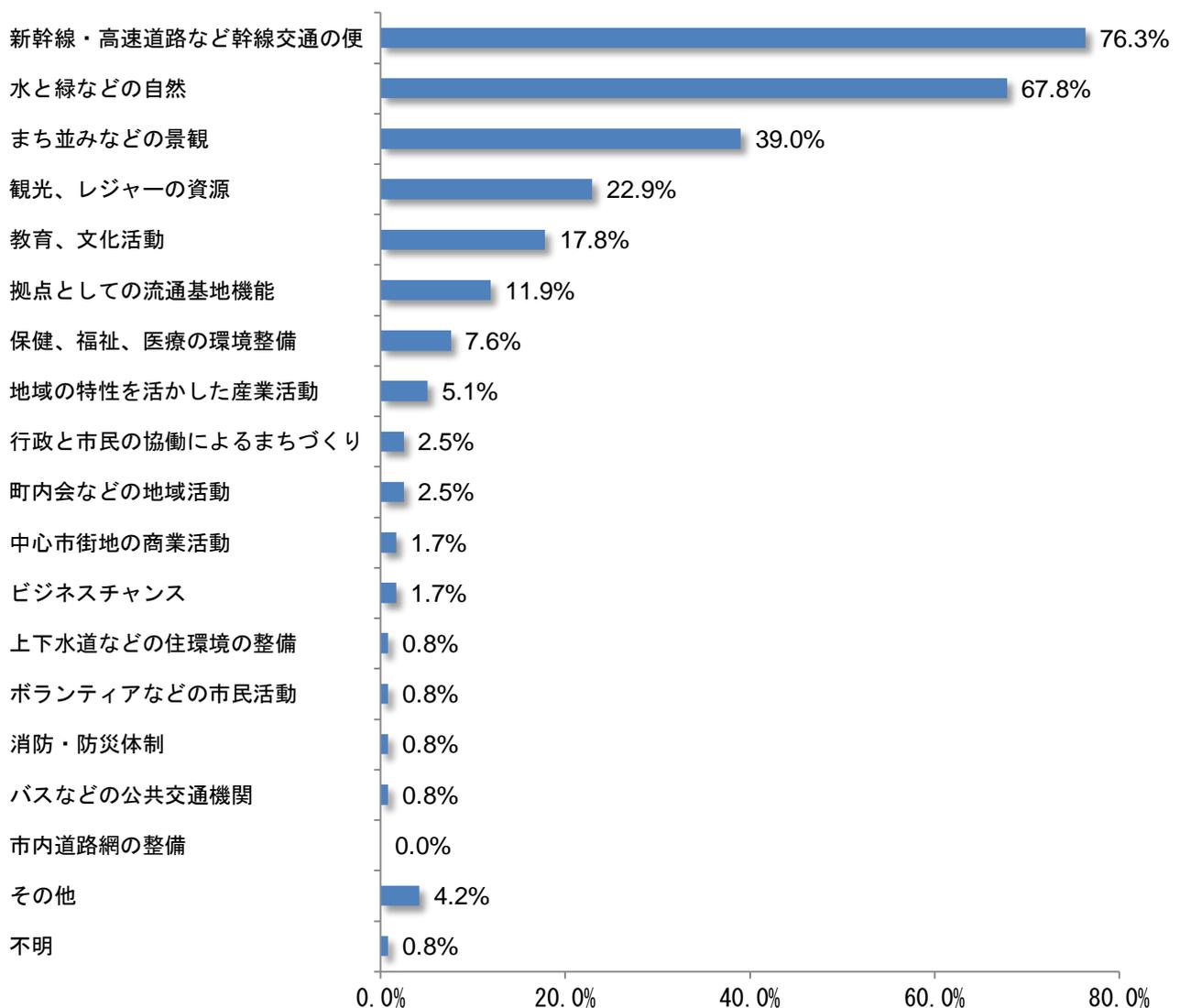
問1 東北の各都市と比較した場合、盛岡市が優れていると思われるところはどんな点ですか。次の中から3つ以内をお選びください。

●「新幹線・高速道路など幹線交通の便」が最も多い(76.3%)

・「新幹線・高速道路など幹線交通の便」を選んだ人が最も多く、次いで「水と緑などの自然」、「まち並みなどの景観」となっています(図表Ⅲ-1)。

・前回調査と比較すると、上位3項目は、今回の調査でも多くの人が選んでいますが、中でも「新幹線・高速道路など幹線交通の便」は、21.5%上昇し、76.3%と高い割合で選ばれています。東北新幹線が青森まで延伸されたことなどにより、交通の利便性が向上したことが考えられます(図表Ⅲ-2)。

(図表Ⅲ-1 優れているところ 回答者数 118人)



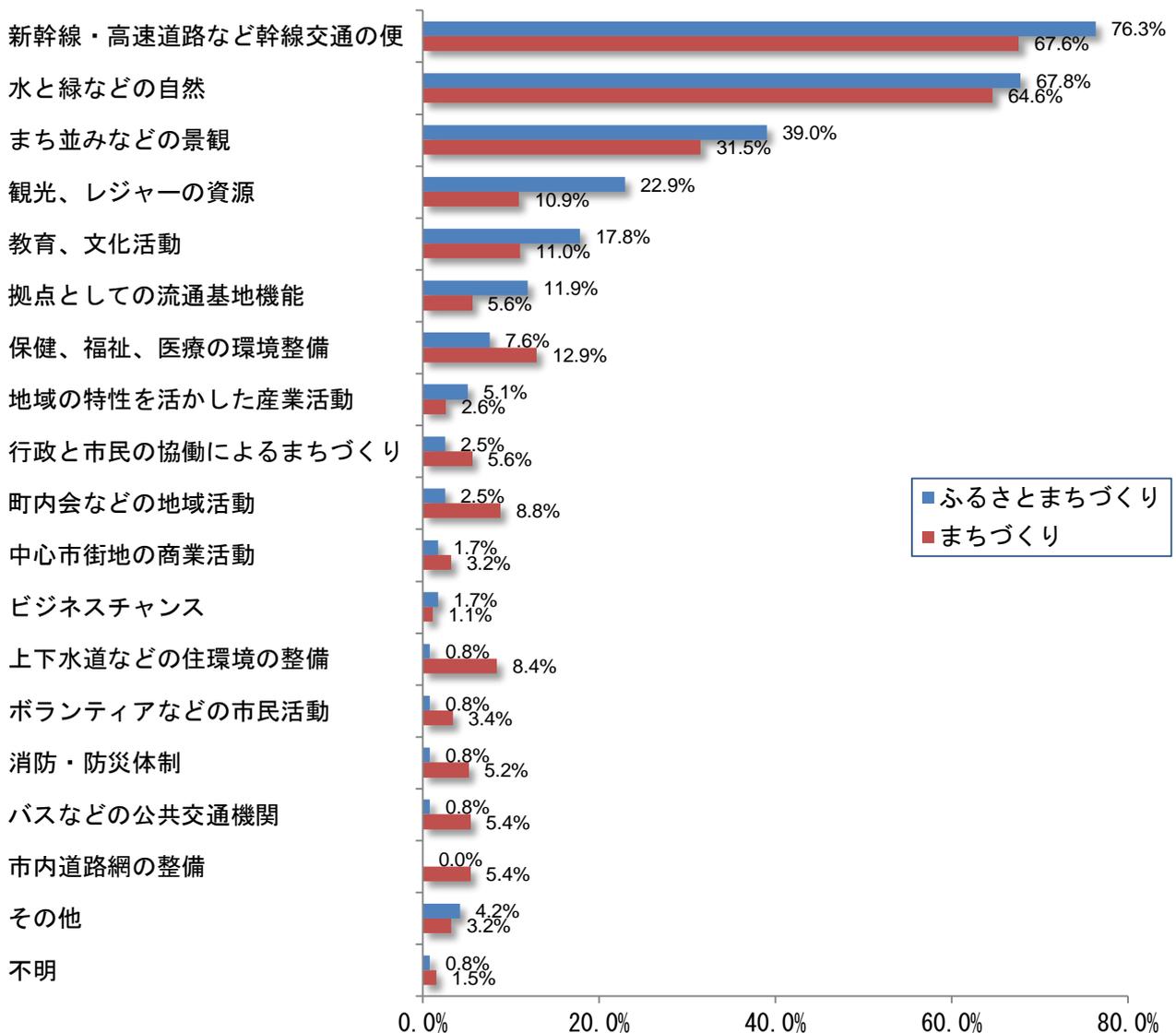
(図表Ⅲ-2 優れているところ 前回調査比較)

	前回 (平成 15 年 7 月 調査)		今回	
	選択肢名	割合 (%)	選択肢名	割合 (%)
1 位	水と緑などの自然	83.3	新幹線・高速道路など幹線交通の便	76.3
2 位	新幹線・高速道路など幹線交通の便	54.8	水と緑などの自然	67.8
3 位	まち並みなどの景観	35.7	まち並みなどの景観	39.0
4 位	観光、レジャーの資源	23.8	観光、レジャーの資源	22.9
5 位	教育、文化活動	19.0	教育、文化活動	17.8

■ まちづくりアンケートとの比較 (図表Ⅲ-3)

- ・上位3項目は、各アンケートで同様の傾向となっています。
- ・まちづくりアンケートでは、「保健、福祉、医療の環境整備」などの生活に密接に関連した項目を選んだ割合が高くなっており、ふるさとまちづくりアンケートでは、「観光、レジャーの資源」、「教育、文化活動」、「拠点としての流通基地機能」を選んだ割合が高くなっていきます。

(図表Ⅲ-3優れているところ まちづくりアンケート比較)



## ② 力をいれていくところ

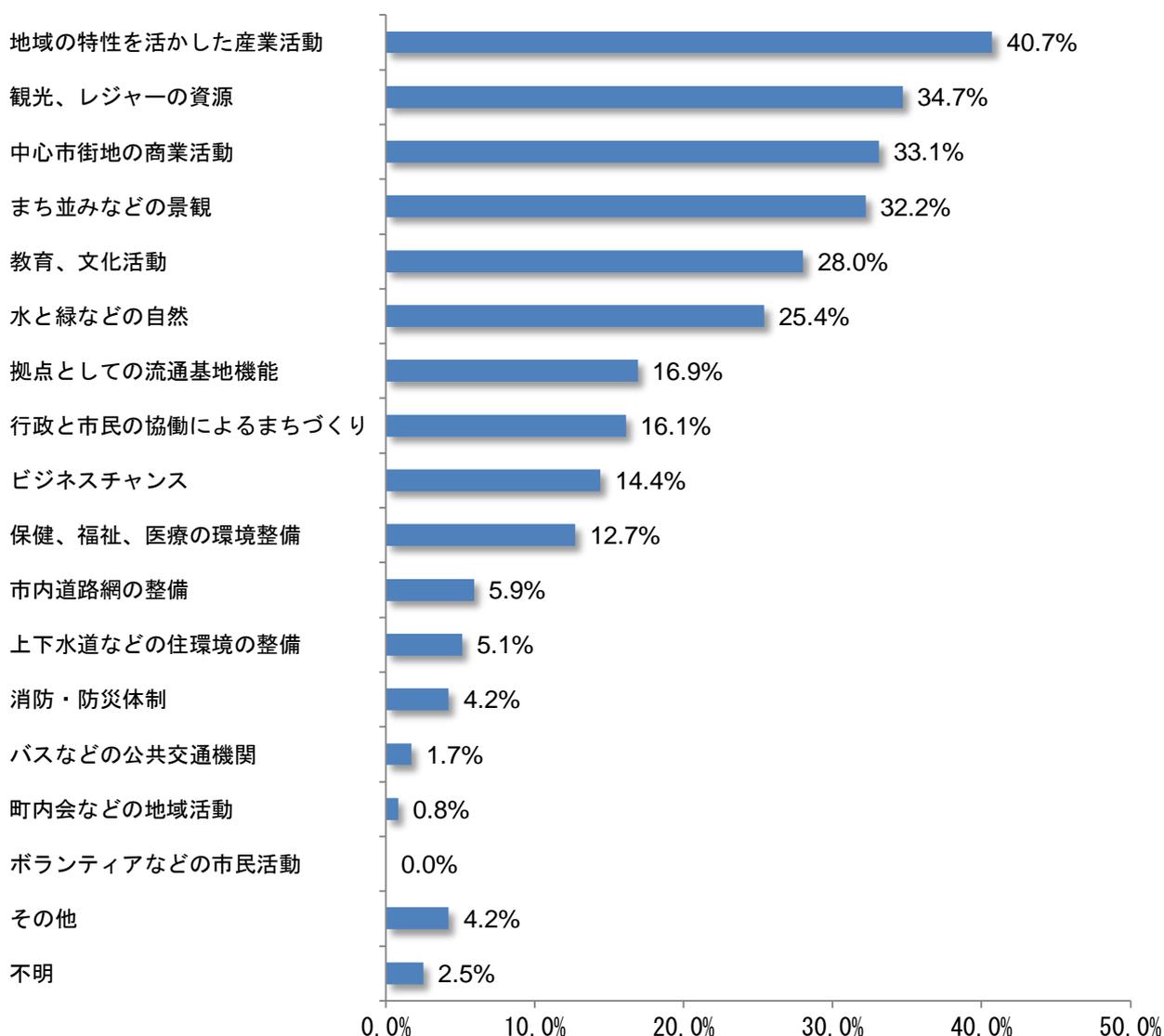
問2 それでは、盛岡市では今後どのようなことに力をいれていくべきだとお考えですか。次の中から3つ以内をお選びください。

### ●「地域の特性を活かした産業活動」が最も多い（40.7%）

・「地域の特性を活かした産業活動」が最も多く、次いで「観光、レジャーの資源」、「中心市街地の商業活動」となっています（図表Ⅲ-4）。

・前回調査と比較すると、前回1位だった「市内道路網の整備」が39.3%減少し、代わりに「地域の特性を活かした産業活動」、「中心市街地の商業活動」の割合が高くなっており、地域や中心市街地の活性化がより重要視されてきていることが分かります（図表Ⅲ-5）。

（図表Ⅲ-4 力をいれていくところ 回答者数 118人）



(図表Ⅲ-5 力をいれていくところ 前回調査比較)

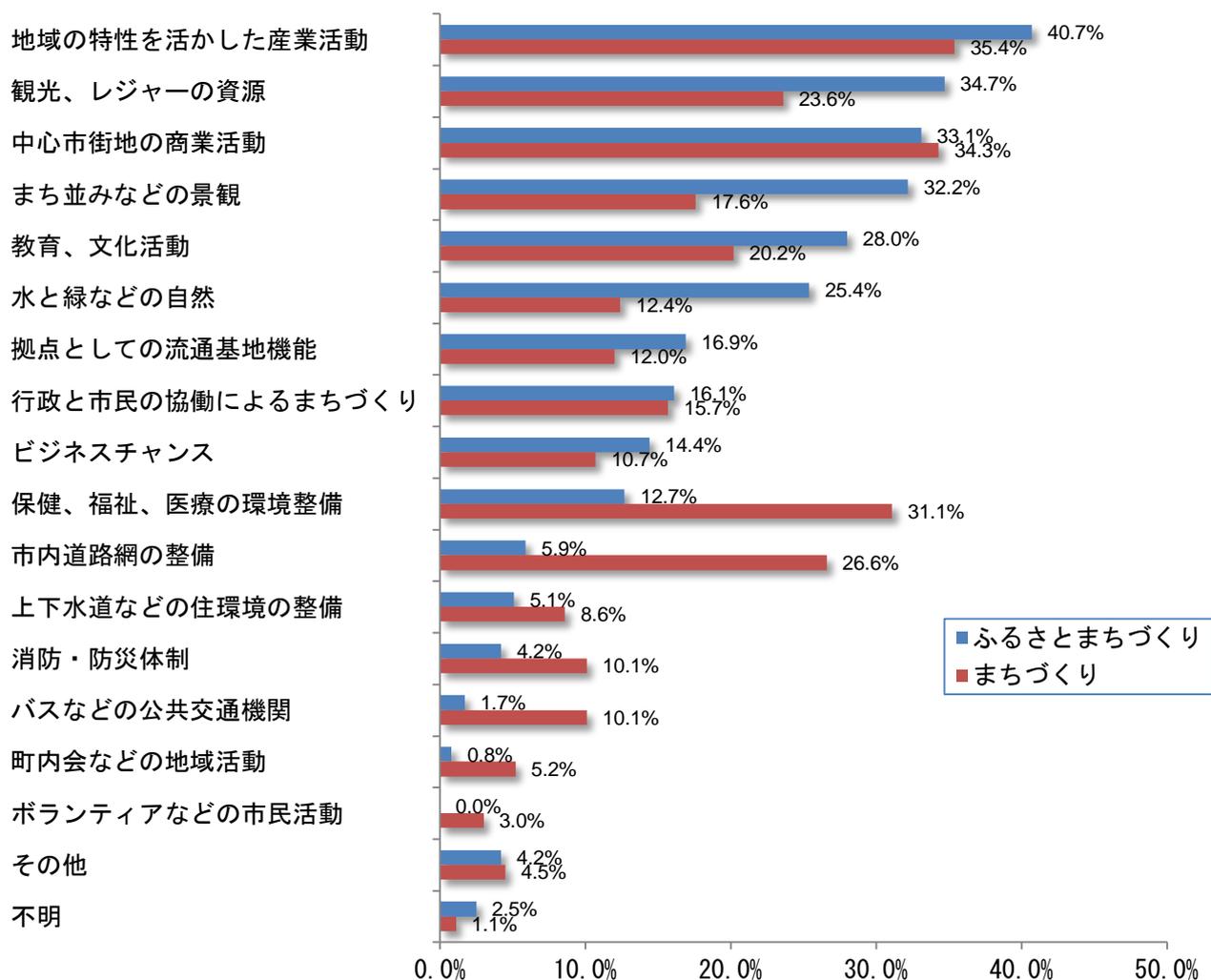
	前回 (平成 15 年 7 月 調査)		今回	
	選択肢名	割合 (%)	選択肢名	割合 (%)
1 位	市内道路網の整備	45.2	地域の特性を活かした産業活動	40.7
2 位	観光、レジャーの資源	33.3	観光、レジャーの資源	34.7
3 位	まち並みなどの景観	28.6	中心市街地の商業活動	33.1
4 位	中心市街地の商業活動	26.2	まち並みなどの景観	32.2
5 位	地域の特性を活かした産業活動	25.0	教育、文化活動	28.0

■ まちづくりアンケートとの比較

・「地域の特性を活かした産業活動」、「中心市街地の商業活動」は、各アンケートで割合が30%を超えています。

・まちづくりアンケートでは、「保健、福祉、医療の環境整備」、「市内道路網の整備」などの生活に密接に関連した項目を選んだ割合が高くなっており、ふるさとまちづくりアンケートでは、「観光、レジャーの資源」、「まち並みなどの景観」、「水と緑などの自然」を選んだ割合が高くなっています。

(図表Ⅲ-6 力をいれていくところ まちづくりアンケート比較)



(2) 盛岡市の将来像について (問3)

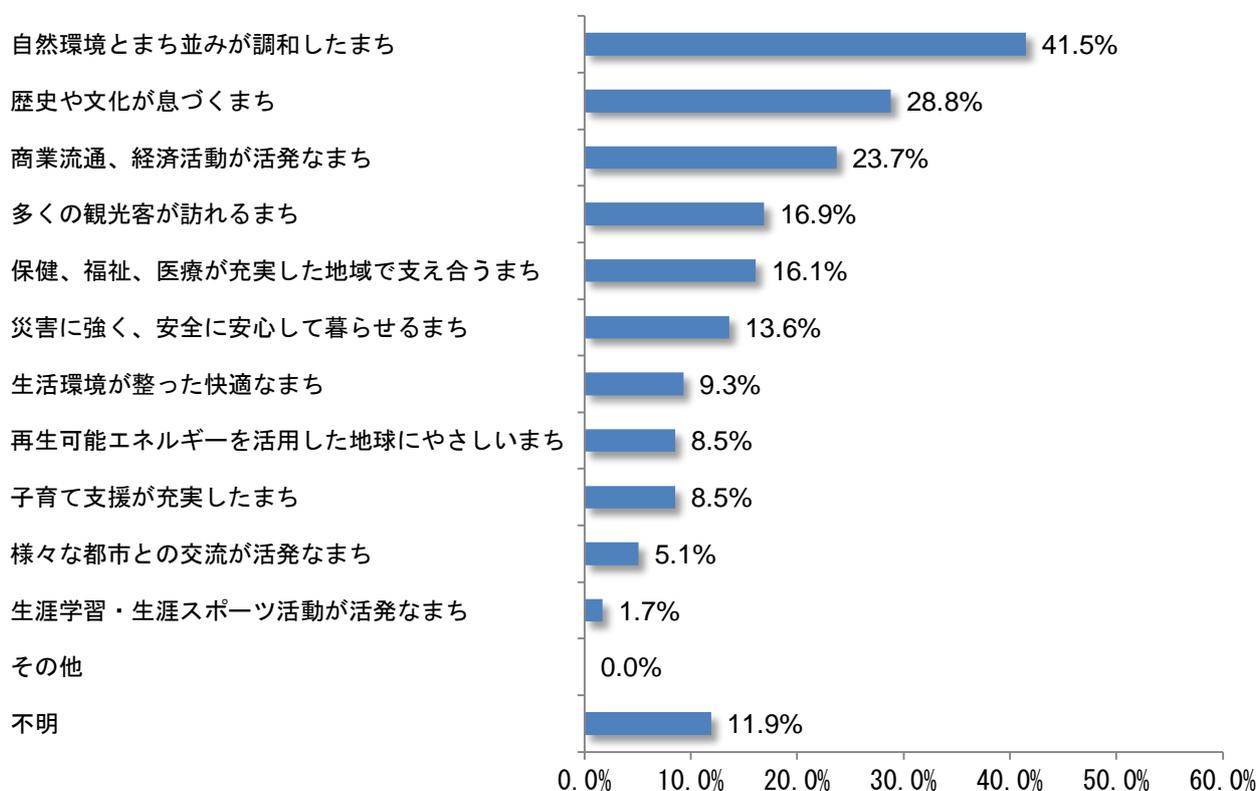
問3 盛岡市が10年後、どのようなまちであってほしいと思いますか。次の中から2つ以内をお選びください。

●「自然環境とまち並みが調和したまち」が最も多い(41.5%)

・「自然環境とまち並みが調和したまち」選んだ人が最も多く、次いで「歴史や文化が息づくまち」、「商業流通、経済活動が活発なまち」となっています(図表Ⅲ-7)。

・今回の調査で「災害に強く、安全に安心して暮らせるまち」などの選択肢を新たに追加しているため、全体的に各項目の割合が減少していますが、前回調査と比較すると、上位項目は今回の調査でも上位となっています(図表Ⅲ-8)。

(図表Ⅲ-7 盛岡市の将来像 回答者数 118人)



(図表Ⅲ-8 盛岡市の将来像 前回調査比較)

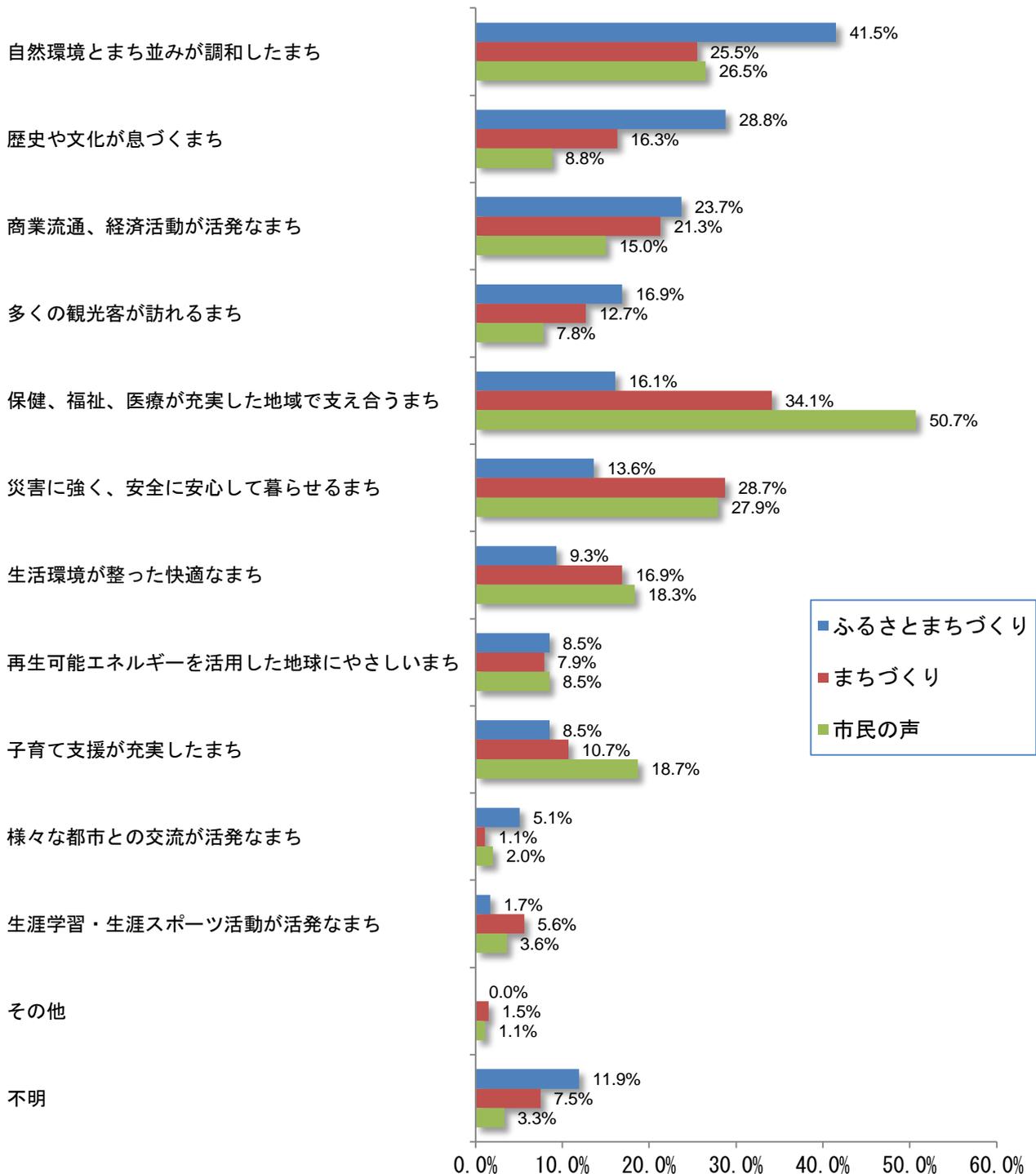
	前回 (平成 15 年 7 月調査)		今回	
	選択肢名	割合 (%)	選択肢名	割合 (%)
1位	自然環境とまち並みが調和したまち	46.4	自然環境とまち並みが調和したまち	41.5
2位	観光資源や交通の拠点性をいかしたまち	33.3	歴史や文化が息づくまち	28.8
3位	歴史や文化が息づくまち	32.1	商業流通、経済活動が活発なまち	23.7
4位	生活環境が整った快適なまち	25.0	多くの観光客が訪れるまち	16.9
5位	商業流通、経済活動が活発なまち	25.0	保健、福祉、医療が充実した地域で支え合うまち	16.1

■ 市民の声アンケート、まちづくりアンケートとの比較（図表Ⅲ-9）

・市民の声アンケートとまちづくりアンケートでは、上位3項目が同様の傾向となっていますが、市民の声アンケートでは、生活に密接に関連している「保健、福祉、医療が充実した地域で支え合うまち」、「子育て支援が充実したまち」を選んだ割合が非常に高くなっています。

・一方で、ふるさとまちづくりアンケートでは、「自然環境とまち並みが調和したまち」、「歴史や文化が息づくまち」、「商業流通、経済活動が活発なまち」など、外から見た盛岡の魅力、盛岡らしさに関する項目を選んだ割合が高くなっています。

（図表Ⅲ-9 盛岡市の将来像 市民の声アンケート、まちづくりアンケート比較）



(3) 考慮すべき社会の動向について (問4)

問4 盛岡の将来像を考える場合、最も考慮しなければならない社会の動向は何だとお考えですか。次の中から2つ以内をお選びください。

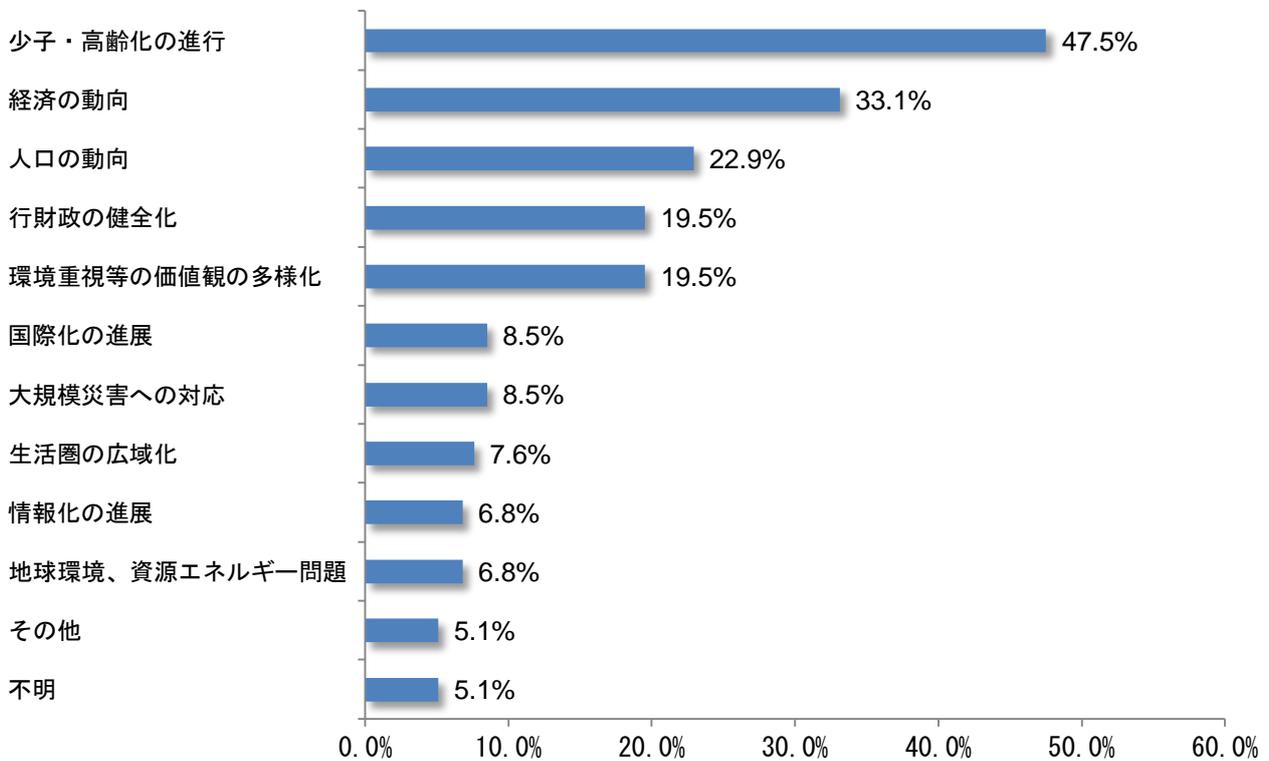
●「少子・高齢化の進行」が最も多い(47.5%)

・「少子・高齢化の進行」を選んだ人が最も多く、次いで「経済の動向」、「人口の動向」となっています(図表Ⅲ-10)

・前回調査と比較すると、上位項目は今回の調査でも上位となっていますが、中でも「少子・高齢化の進行」は11.2%上昇しています。

・一方で、「行財政の健全化」は12.6%減少しており、平成16年度から6年間にわたり取り組んできた行財政構造改革の成果が要因の一つとして考えられます(図表Ⅲ-11)。

(図表Ⅲ-10 考慮すべき社会の動向 回答者数 118人)



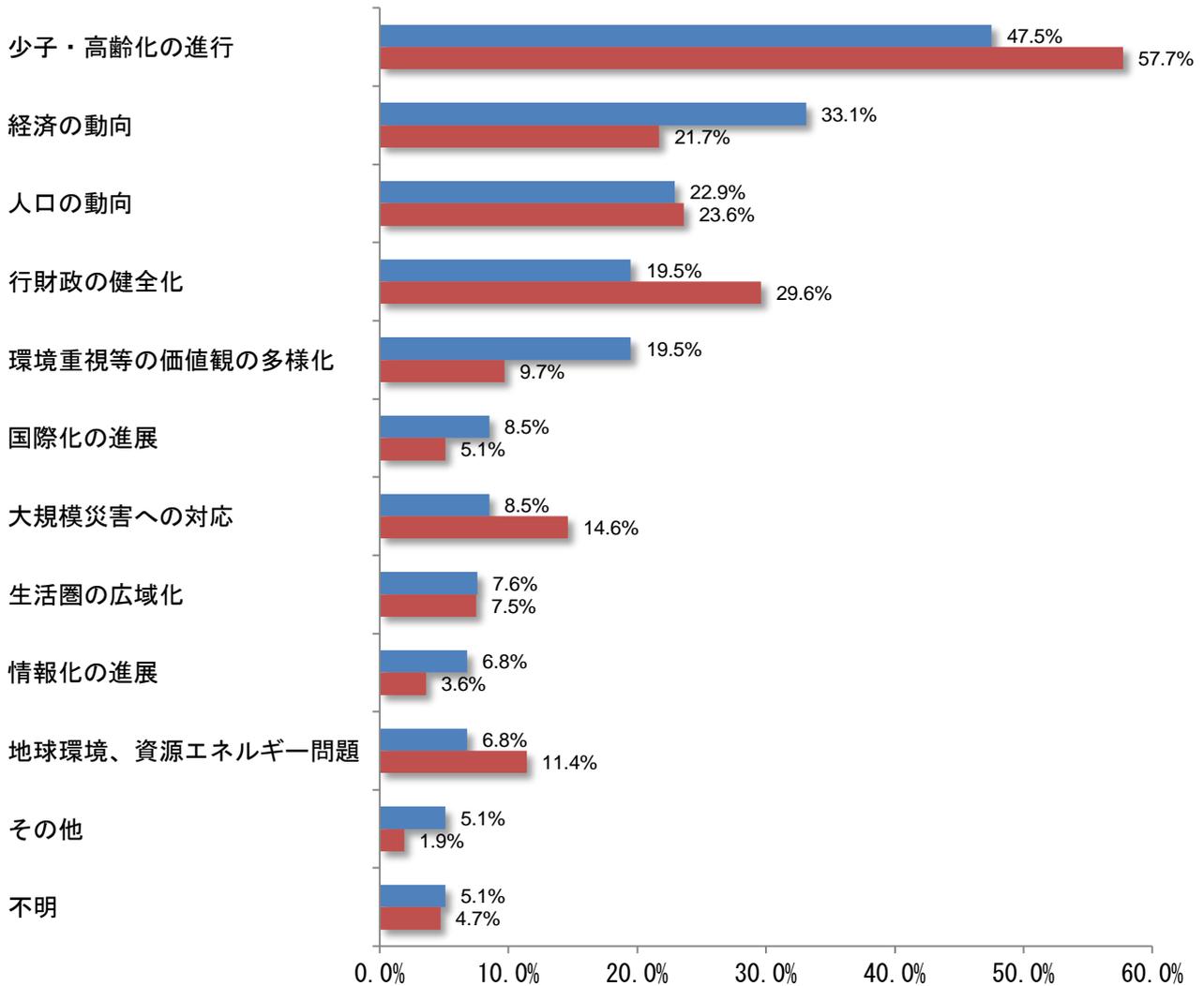
(図表Ⅲ-11 考慮すべき社会の動向 前回調査比較)

	前回 (平成15年7月調査)		今回	
	選択肢名	割合 (%)	選択肢名	割合 (%)
1位	少子・高齢化の進行	35.7	少子・高齢化の進行	47.5
2位	経済の動向	34.5	経済の動向	33.1
3位	行財政の健全化	32.1	人口の動向	22.9
4位	人口の動向	22.6	行財政の健全化	19.5
5位	生活圏の広域化	21.4	環境重視等の価値観の多様化	19.5

## ■ まちづくりアンケートとの比較

- ・「少子・高齢化の進行」は、各アンケートで最も割合が高くなっています。
- ・ふるさとまちづくりアンケートでは、「経済の動向」を選んだ割合が30%を超えていますが、まちづくりアンケートでは約20%となっています。

(図表Ⅲ-12 考慮すべき社会の動向 まちづくりアンケート比較)



(4) まちづくりへの提言について (問5 記述式)

問5 市内外の人から「住みたい」、「訪れたい」、「住んでみたい」、「事業活動したい」などと思われるようなまちとなるには、どのような魅力を市内外にPRしていくべきだとお考えですか。自由に提言をお聞かせください。

① 提言件数

231件 (回答者数87人)

提言の件数は複数回答の取扱いとしています。

② 提言の概要

提言の内容を整理するため、現在の盛岡市総合計画の施策の柱(8)と施策(41)ごとに分類したところ、以下のようになりました。

■ 施策の柱

「5活力ある産業の振興」に関する提言が最も多く、次いで「7快適な都市機能」、「4共に生き未来を創る教育・文化」に関する提言が多くなっています。

施策の柱	件数(件)	割合(%)
1 いきいきとして安心できる暮らし	9	3.9
2 安全な暮らし	2	0.9
3 心がつながる相互理解	2	0.9
4 共に生き未来を創る教育・文化	29	12.6
5 活力ある産業の振興	63	27.3
6 環境との共生	26	11.3
7 快適な都市機能	48	20.8
8 信頼される質の高い行政	20	8.7
9 その他(市政関連、アンケートに関する意見など)	32	13.9
合計	231	100.0

■ 施策

施策の柱	施策	件数(件)
きる暮らし いきいきとして 安心して	1 健やかに暮らせる健康づくりの推進	0
	2 地域をリードする医療体制の確立	5
	3 共に歩む障がい者福祉の実現	0
	4 高齢社会に適応した高齢者福祉の充実	2
	5 暮らしを支える制度の充実と自立支援	0
	6 みんなで支える子育て支援の展開	2
	7 ふれあいが広がる地域福祉の実現	0
	小計	9
ら安全な暮らし	1 自然災害対策の推進	2
	2 火災に強い消防体制の構築	0
	3 市民生活を守る安全対策の充実	0
	小計	2

施策の柱	施策	件数（件）
3 心がつなが る相互理解	1 元気な地域コミュニティ活動の推進	0
	2 人権を尊重する地域社会の形成	0
	3 多様な国際交流・地域間交流の推進	2
	4 快適な情報ネットワークの実現	0
	小 計	2
4 共に生き未来を 創る教育・文化	1 将来を担う次世代の育成	14
	2 いつでもどこでも学ぶことができる環境の構築	0
	3 生涯にわたり楽しめるスポーツ・レクリエーションライフの実現	1
	4 豊かな心を育む芸術文化活動の支援	2
	5 歴史を受け継ぐ文化遺産の保護・活用	12
	小 計	29
5 活力ある産業の 振興	1 活力ある農林業の振興	3
	2 まちに活力を与える工業の振興	10
	3 多様で活発な商業・サービス業の振興	13
	4 地域資源をいかした観光・物産の振興	27
	5 安定した雇用の創出と良好な労働環境の促進	10
	小 計	63
6 共生環境との	1 生活環境の保全	0
	2 かけがえのない自然との共生	21
	3 地球環境への貢献	5
	小 計	26
7 快適な都市機能	1 適正な土地利用計画の推進	2
	2 魅力ある都市景観の形成	21
	3 快適な居住環境の実現	1
	4 うるおいのある公園・街路樹の確保	3
	5 いつでも信頼される上水道事業の推進	0
	6 健全な水環境・良好な水循環の創出	0
	7 にぎわいのある市街地の形成	6
	8 都市活動を支える交通環境の構築	15
	小 計	48
8 行政信頼される質の高い	1 健全な財政運営の実現	1
	2 計画的で効率的な行政運営の推進	1
	3 市民とともに作る行政の実現	15
	4 市民の負託に応える組織の構築・人材の育成	0
	5 より便利な行政サービスの構築	0
	6 自治の確立を目指す取組みの強化	3
	小 計	20
9 その他（市政関連、アンケートに関する意見など）		32
合 計		231

## ■ 施策の柱ごとの主な内容

個々の提言については、「施策ごとの内容（P147～）」に掲載しています。

### 1 いきいきとして安心できる暮らし

医療体制の確立や高齢者福祉に関する提言などがありました。医療体制の確立については、市内外の子育てを行う若い人たちや第二の人生を考える高齢者に、医療環境やその他生活環境が良好であることをPRしていくべきなどの提言がありました。高齢者福祉については、医療と福祉（老人ホーム）を一体として捉え、高齢社会に対応した未来のモデル都市を目指すべきなどの提言がありました。

### 2 安全な暮らし

東日本大震災において倒壊等の被害を出さなかった実績をPRし、更に防災体制に磨きをかけるべきなどの自然災害対策に関する提言がありました。

### 3 心がつながる相互理解

外国人が気軽に訪れる、住むことができる国際都市としてPRしていくべきなどの国際交流に関する提言がありました。

### 4 共に生き未来を創る教育・文化

人材の育成や歴史・文化の活用に関する提言が多くありました。人材の育成については、石川啄木などを輩出した文教のまちであることをPRしていくべき、もっと教育環境の整備や人材育成に力をいれるべきなどの提言がありました。歴史・文化の活用については、「みちのく」という他の地域と異なるユニークな歴史、それをつくった自然や人々を生かし、さらに磨き上げてPRしていくべきなどの提言がありました。

### 5 活力ある産業の振興

観光・物産の振興に関する提言が多くありました。観光・物産の振興については、さんさ踊りなどの祭りイベントでは市民総出で盛り上がる、パワーを秘めたまちであることをPRしていくべきなどの提言がありました。また、産業振興に力を入れ、新しい産業や企業が芽生えた活気が感じられるまちであることをPRしていくべき、岩手大学等の学術技術の活用や連携を強化していくべきなどの提言がありました。

### 6 環境との共生

自然との共生に関する提言が多くありました。自然とまち並みの共存のPRに当たり、インパクトのある映像やキャッチコピーを効率的に露出するべきなどの提言がありました。また、エコなまちづくりのモデル都市になることをPRしていくべきなどの提言がありました。

## 7 快適な都市機能

景観形成や交通環境の整備に関する提言が多くありました。景観形成については、盛岡の景観の良さをしたたかに前面にPRしていくべきなどの提言がありました。交通環境の整備については、市がレンタル自転車を用意したり、100円バスの路線の拡充をするべき、車に頼らない公共バスと歩行者に優しい道路を整備するべきなどの提言がありました。

## 8 信頼される質の高い行政

まちづくりに関する提言が多くありました。市の強みを強くPRし、企業ブランチの誘導や安全な観光地としての集客を行い、これらをブランド化して「盛岡ファン」を作り、税収増と人口増を達成する、近隣市町村と連携し、シナジー効果を生み出すまちづくりをするべきなどの提言がありました。

## 9 その他

ふるさと納税について、一度納税した人に市長が一文を添えて毎年納付書を送付するなど、もっと積極的に進展させるべき、岩手県の北上山地がILCの候補地になったことをPRしていくべき、何か一つ「盛岡といえば〇〇」、「日本一〇〇な都市」という特定分野に集中投資して、市内外に広くPRできるものを育ててほしいなどの提言がありました。

■ 施策ごとの内容

- ・現在の盛岡市総合計画の施策ごとにまとめて掲載しています。
- ・施策番号に対応する施策名については、P 143, 144を参照してください。
- ・趣旨を変えない程度に要約したものもあります。
- ・同趣旨と思われ、割愛したものもあります。

●施策の柱 I いきいきとして安心できる暮らし

施策	内容
1	
2	<p>病院，施設等の医療環境を整備し，高齢者対策を充実させ，高齢者の不安の解消を図る。</p> <p>内外の子育てを行う若い人たちや第二の人生を考える高齢者に，医療環境やその他生活環境が良好であることをPRする。</p>
3	
4	<p>幼稚園と保育園に高齢者が利用できる施設を併設する。</p> <p>医療と福祉（老人ホーム）を一体と捉え，高齢社会に対応した未来のモデル都市を目指す。行政の発想ではなく，北欧，ベルギー，オランダのような常に穏やかな生活と安心の都市を目指す。</p>
5	
6	<p>若い夫婦が安心して子育てできるまち（例えば，20～30代夫婦の家賃無料化，子どもの医療費無料化）。</p>
7	

●施策の柱 II 安全な暮らし

施策	内容
1	東日本大震災において倒壊等の被害を出さなかった実績をPRし、さらに防災体制に磨きをかけるべき。
2	
3	

●施策の柱 III 心がつながる相互理解

施策	内容
1	
2	
3	<p>2020年の東京オリンピックに向け、外国人が気軽に訪れたり住むことができる国際都市をPRする（例：施設の場所が外国人に分かりやすい表示や市内マップを整備する。「盛岡マイスター制度」を作り、市内各所外国語説明員をボランティアで育成する。外国語を話せる人を集め、市民を計画的に教育する。）。</p> <p>先住住民や交流人口を大切に、具体的施策を打ち出すことを期待する。</p>
4	

●施策の柱 IV 共に生き未来を創る教育・文化

施策	内容
1	<p>教育に力を入れ、自信と誇りを持った人材育成を。</p> <p>県立美術館や先人記念館等でみられる文化を守り，PRしてほしい。多くの有名な先人をもっと全面に出して，PRしてほしい。</p> <p>子どもと大人両方の教育。税金を投入し，将来の指導者育成を重点的に行う。世界に通用する人材の宝庫を作り上げてほしい。</p> <p>学校教育にもっと力を入れ，盛岡ならではというあたたかな人間性が感じられるまちになってほしい。</p> <p>教育を充実させ，有能な人材を輩出するまちになってほしい。</p> <p>教育環境（人），自然環境を打ち出す（物），情報発信（金）により，「人が寄り合い集まり魅力あるまち」に。</p> <p>中学生，高校生の頃からお金の大事さ，アイデアや事業を育てる情熱を育成するプログラムを作る。</p> <p>偉人輩出の街だが，地元人が知らないのも困る。</p> <p>新渡戸稲造，石川啄木，宮沢賢治等を輩出した「文教のまち」としてPRする。</p> <p>第3次産業が80%以上という盛岡の特色を考えると，通訳ガイドなど人を集められる人材を育成することがキーポイントになる。</p>
2	
3	<p>「自然豊かな」の表看板では，市民の自主的なまちの発展への活動にブレーキをかけてしまう。「活発なまち」の印象づくりに方向転換してはどうか。子ども，行政人も思考転換の再教育セミナーが必要。力ある若者を育てることやスポーツの振興は，魅力のPRには欠かせぬ努力かと思う。</p>
4	<p>これぞ盛岡という求心的な文化行事や特徴ある産業が必要。</p> <p>アート・芸術の香りがするまちづくりを提案する。</p>
5	<p>歴史・文化の根付いたまちとしてPRする。</p> <p>「人がやさしい，歴史がある，自然に恵まれていること」等を活かし，「のどかな都会」になってほしい。</p> <p>自然・文化が生き生きと感じられる温かいまちであることをPRしてほしい。</p> <p>盛岡であればこそという文化，食べ物，街並み，風景などを徹底して守るべき（医療や教育など基本的なことは言うに及ばずの上）。</p> <p>潜在的に持っている文化，歴史等の遺産を観光資源として活かす。</p> <p>「みちのく」という他の地域と異なるユニークな歴史，それをつくった自然や人々を生かした地域の良いところをさらに磨き上げPRする。</p> <p>大自然に囲まれた都市を破壊せず，歴史遺産や景観を大切に，訪れた人がほっとする空気が流れる街を残してほしい。高齢者の視点としては，来訪者をやさしく迎えてくれるまちの発展を希望する。</p> <p>自然と歴史・文化の観光は重視しても，レジャー（スポーツ）は限界あり。</p> <p>文化・景観都市にしたいならば，新撰組同様に天皇と幕府を共に大事にした南部藩の誇りを持つこと。天守閣を作り，旧町名に戻す。不来方のお城から岩手山が見えるようにする。啄木・賢治が讃えた岩手山の景観を残す工夫と努力が足りない。</p>

●施策の柱 IV 共に生き未来を創る教育・文化

施策	内容
5	<p>盛岡城跡公園の台座だけで、像がないのは寂しい。きちんとできれば多くの観光客が訪れ、歴史や文化が息づくと思う。</p> <p>盛岡八幡宮の祭典等，地域のお祭りの賑わいを大切にし，様々な世代が交流するコミュニティがあるまちづくりを。豊かな自然景観の誘導路の整備，エリアの拡大が必要。観光客も安心して立ち寄れるように，地区ごとの歴史・文化資産を街の風土や地域資源として活かし，商店街の集中や緑豊かな公園などを整備する。盛岡駅西側の公共駐車場を来訪者にPRする。広域圏の幹線道路の案内と名所旧跡や温泉保養地をPR。</p>

●施策の柱 V 活力ある産業の振興

施策	内容
1	<p>地場産業・特産品の育成強化とPR（例：野菜、果物の開発、ITを活用したデザインと販売戦略（南部鉄器など）。</p> <p>1次産業をベースに6次産業推進のまちづくりを行うことが大切。</p> <p>食とエネルギーの地産地消を目指す。</p>
2	<p>これぞ盛岡という求心的な文化行事や特徴ある産業が必要。</p> <p>大学の研究成果の活用は地元密着型だけではなく、全国や世界に発信できる革新的なものがほしい。</p> <p>岩手大学等の学術技術の活用，連携強化。</p> <p>経済活動・産業活動が活発であれば，世界各国から人が集まる。行政は起業家を育てる教育，伸びようとする産業の発信の手助けを。</p> <p>大学の技術サポートや，経理・法務のアドバイザー等，企業家として最初の段階のサポートが手厚いまちづくり。経験豊かなコーディネーターが必要。</p> <p>都心にもものづくり機能を埋め込み，生活ともものづくりが共存する都市空間再生のモデルとなつてほしい。盛岡手づくり村を都心に回帰させてもよい。</p> <p>先端技術ではなく，伝統的・創造的なものづくりの場の提供。都会から若者を誘致。</p> <p>産業振興に力を入れ，新しい産業や企業が芽生え，活気が感じられるまちをアピール。</p> <p>創業への助成。</p>
3	<p>大通商店街活性化，中心市街地の活性化が必須。昼夜問わず大通りを沢山の人が歩く賑やかなまちづくりをする。</p> <p>「住みたい，訪れたい，住み続けたいまち」には，今後富裕層の高齢化した人口が増えることと想定すべきである。「エコなまちづくり」のモデル都市になることをPRする。</p> <p>①歩行者・自転車のネットワークの構築を最優先し，自動車交通に依存しない都市空間経営を発展させる（バリアフリーネットワーク，自転車ネットワークの構築，環境配慮型自動車への転換，超小型自動車・モビルへ対応した環境整備）。</p> <p>②ICTとの連携実現を将来目標にし，地域住民～隣接都市，市町村～来外者に分かりやすい都市空間の整備をする（公共サイン計画により，ユニバーサルデザイン化，位置情報活用できる施設を配置し，市内各所に「憩える」場所の設置・連携）。</p> <p>③中心市街地では都市計画の柔軟な運用方法を導入し，地域特性を活かせる手法を研究，開発，実践していくまちであることを表明する（首都圏都市とは，全く異なる都市空間形成，都市経営手法の導入，歴史・文化を維持しつつも，快適性，回遊性，安全性の高いまちに）。</p> <p>中心市街地は単に首都圏と同じようなことは望まず，歴史と景観をいかす。文化歴史的景観の再生・創造をするべく，中心市街地の土地所有者の啓蒙と若手企業者の連携を図る。周囲の自然環境や食などの観光資源，交通の有利さを活かすべき。</p> <p>大通りに品性がない。新宿歌舞伎町のほうがはるかに情緒あり。</p> <p>ビルの空き部屋を若者に活用させる。</p> <p>若者だけではなく大人もショッピングを楽しめる街並みがほしい。</p> <p>事業内容を広く宣伝活動してほしい。</p> <p>日中買い物ができる小さくても落ち着いた通りがあるとほっとする。</p> <p>市街化を推進し，商店街の再構築，街並み整備を行う。</p>

●施策の柱 V 活力ある産業の振興

施策	内容
3	生活環境（日常の買い物）が整ったまちとしてPRする。
	<p>「啄木・賢治のまち」として観光施設の充実を図り、市民の意識が高まるような施策を期待する。</p> <p>震災で実証された強固な地盤の上に建設された都市、整備されたインフラ・交通網等を強くPRし、企業ブランチの誘導や安全な観光地としての集客を行う。これらをブランド化して「盛岡ファン」を作り、税収、人口増を達成する。</p> <p>隠れた魅力のある自然環境のPR強化と観光資源の発掘、開発（例：姫神山麓の休暇村整備、天峰山、大山桜のキャンペーン）。</p> <p>何をベースにし、ポイントにするか、テーマを絞り込むこと。単に「岩手公園があります」ではなく、「東北三大名城であり石垣の組み方の美しさ」をPRする事が大事。パンフレットやポスターを各都道府県のもっと人目に触れる場所へ貼ってほしい。</p> <p>高松の池、石割桜に観光バスの駐車スペースを確保するなど観光への配慮を具体化。</p> <p>帰省客のためにもさんさ踊りをもっとPRしてほしい。</p> <p>玉山日戸での花見を計画してほしい。</p> <p>北上川とロマンチック街道をキャッチフレーズに観光資源を活かせる整備とPR活動。</p> <p>北欧の「森と湖」に似たまちづくりで、観光客を呼ぶ活動。</p> <p>市内の人が「住みたい」と思うためには、快適な生活環境の整備が必須であるが、市外の人が「訪れたい」と思うためには、景観や短時間で観光できる利便性が必要になる。そのギャップを埋めることが両者の並存に繋がり、息の長い「まちづくり」に必要なのではないかと。</p>
4	<p>様々な県産品の優れた点をPR。</p> <p>市内のいたるところで、毎週のように祭りやイベントなどが催されており、素晴らしい。</p> <p>観光客・市民が散歩しながら買い物ができる所、生きた名所づくり（例1：埼玉の川越通り、金沢の東茶屋街、奈良の奈良井宿など、盛岡といえば「〇〇通り、●●街」というところを作る。例2：盛岡城の復元、整備）。</p> <p>観光客を案内しやすい観光ルートの整備。</p> <p>東京で行われている他都市のイベントに参加するが、他都市に比べ出店数や目玉商品などPR不足。積極的にPRし、「ぜひ盛岡を訪れたい」という所から入っていくのもまちづくりの一步だと思ふ。</p> <p>観光資源の発掘（例：市内への町屋復活）。</p> <p>温泉・三大麺・市内観光がスムーズに出来るようにし、リピーターが訪れる工夫を。</p> <p>近隣市町村と連携したプログラムの推進（例：街めぐり、食文化の組み合わせ、繋温泉、小岩井農場などを組み合わせたプログラム、平泉や角館とのセットプログラムなど）。</p> <p>「訪れたい」という観点からの魅力（自然（北上川、岩手山など）に恵まれている・温泉が近い・交通の便のよさ・食べ物（そば、海産物）がおいしい）をPRする。</p> <p>「歴史文化都市」の1点に絞りPRする（例：盛岡城跡公園、桜山神社の整備。大慈寺（原敬）・円光寺（米内光政）・久昌寺（新渡戸稲造）の三寺巡回に鉾屋町を加えたルート開発。）。</p> <p>さんさ踊り等、イベントでは市民総出で盛り上がる、パワーを秘めた都市としてPRする。</p>

●施策の柱 V 活力ある産業の振興

施策	内容
4	<p>景観の良さを前面にPR。したたかに観光PRを。県外の岩手を気に入ってくれる人は生活環境のよさをほめる。このちょうどよい環境をPRすれば人口の増加に繋がる。</p> <p>旅行者に温かみある対応で、「居場所づくり」をしてあげること。「面白い、熱い、尊敬すべき」人がいる、面白いことができる、落ち着く場所がある等、ソフト施策を打ち出す。県庁所在地として県内に点在する魅力と連携していることをPR。</p> <p>経済活動の活性化のため、宿泊を伴う国内外の観光客誘致策の検討が必要。</p>
5	<p>第2次産業の基盤が脆弱なため、企業誘致に力点を置く、あるいは補助金制度の充実が望まれる。</p> <p>事業活動をする人には、文教施設・土地の広さ・市民の人情の細やかさ等をPR。住むにも働くにも盛岡以外にはないことをPR。</p> <p>雇用の場を増やし、生涯現役で暮らせる、人と自然にやさしい魅力あるまちをPR。</p> <p>若者が働ける場所づくりや雇用を創出するための産業の誘致をもっと推進する。</p> <p>小岩井農場の土地を会社側と活用する。昔の様にサラブレッドを育成し、JRAを呼び、競馬場を活用する。西仙北太田地区を住宅、工場誘致用地として整備して地元の人間の固定化を図る。</p> <p>1次産業：自給自足および将来の産業に結びつくバイオテクノロジー，農業。2次産業：大手企業，本店を誘致。3次産業：接客態度，社員教育徹底。おもてなしの心。</p> <p>経済活動の活性化のため、工業団地の整備・拡充による企業誘致の強化の検討が必要。</p>

●施策の柱 VI 環境との共生

施策	内容
1	
	<p>自然とまち並みの共存をPRしていくべき。そのPR方法を考える。インパクトのある映像やキャッチコピーを効率的に露出するべきである。</p>
	<p>自然豊かなイメージを大切に、国内外にPRする。</p>
	<p>隠れた魅力のある自然環境のPR強化と観光資源の発掘、開発（例：姫神山麓の休暇村整備、天峰山、大山桜のキャンペーン）。</p>
	<p>自然と環境に恵まれており、首都圏との交通の便も良い。</p>
	<p>人がやさしい、歴史がある、自然に恵まれていること等を活かし、「のどかな都会」になってほしい。</p>
	<p>自然・文化が生き生きと感じられる温かいまちであることをPRしてほしい。</p>
2	<p>開発による自然破壊が無いように。樹木伐採も慎重に。</p>
	<p>水・緑等の自然環境と現代的な都市機能の調和がされた住みやすいまちづくりの推進。</p>
	<p>盛岡市は清流と山に囲まれたまちである。他都市では見受けられない自然豊かな「緑の市」を目指す。上の橋・中の橋・下の橋区域を再開発し、まちのコアとして「経済中心」より「自然中心」の生活環境にやさしいまちづくりを。教育環境（人）、自然環境を打ち出す（物）、情報発信（金）により、「人が寄り合い集まり魅力ある街」に。</p>
	<p>自然豊かなまちづくりのために、人的・経済的な資源を集中投資するべき。</p>
	<p>他の市には無い盛岡ならではの魅力（風と緑、自然など）。</p>
	<p>自然環境に恵まれていること（市内を流れる川に鮭が上がるほど水がきれいであること、岩手山、姫神山、北上川、雫石川、中津川など）。</p>
	<p>どんな世界の人があっても自然・水・人の心が優しい都市になってほしい。</p>
3	<p>「エコなまちづくり」のモデル都市になることをPRする。</p>
	<p>再生可能エネルギー供給基地としてPR（太陽光、風力など）。</p>
	<p>地球環境にやさしいまちとしてPRする。</p>
	<p>食とエネルギーの地産地消を目指す。</p>

●施策の柱 VII 快適な都市機能

施策	内容
1	<p>大型出店を抑えてドーナツ化現象を防いでほしい。</p> <p>病院，学校，商業施設がコンパクトにまとまった生活しやすい都市であることをPR。</p>
2	<p>自然とまち並みの共存をPRしていくべき。そのPR方法を考える。インパクトのある映像やキャッチコピーを効率的に露出するべきである。</p> <p>美しく穏やかな盛岡のまちを残してほしい。</p> <p>古いまち並み，歴史的建造物を保存・整備する。</p> <p>中心部には，人通りが少ないが，お洒落な店や地場産の食材を使ったレストラン等があり，「足を運びたいまち」の要素がたくさんある。古い街並みを生かしながら，周辺の整備（交通を含め）も行っていったほうが良い。</p> <p>市内の雰囲気，街並み景観，人情などを盛岡全体となって考えることが必要。</p> <p>歴史あるまちだと思うが，市内を歩いても歴史あるイメージが伝わってこない。明治・大正期の建物が点と点ではなく，線として繋がるようなまちづくり。</p> <p>清潔で綺麗な街並みづくりと管理。</p> <p>緑が多く落ち着いた街並み，歴史と文化の調和しているまちをアピール。</p> <p>文化・景観都市にしたいならば，新撰組同様に天皇と幕府を共に大事にした南部藩の誇りを持つこと。天守閣を作り，旧町名に戻す。不来方のお城から岩手山が見えるようにする（教育会館は不要）。啄木・賢治が讃えた岩手山の景観を残す工夫と努力が足りない。</p> <p>大自然に囲まれた都市を破壊せず，歴史遺産や景観を大切に，訪れた人がほっとする空気が流れるまちを残してほしい。高齢者の視点としては，来訪者をやさしく迎えてくれるまちの発展を希望する。</p> <p>景観の良さを前面にPR。したたかに観光PRを。県外の岩手を気に入ってくれる人は，生活環境のよさをほめる。このちょうどよい環境をPRすれば人口の増加に繋がる。</p>
3	<p>生活の上では冬の寒さ・雪対策を整え，「盛岡の寒さでも充分対応できるのだ」ということをアピール。</p>
4	<p>不来方城の天守閣再現を希望。東京方面からの新幹線から右手に見えたら素晴らしい景観となり，観光客へのインパクトも大きく，訪れたい観光スポットとなると思う。</p> <p>盛岡城構想の実現はインパクトになるだろう（例：季節折々のイベントと城めぐりを組み合わせる）。将来的には外国人の集客も増え，若い人のガイドや語学学校の設立などにも繋がり，若手労働力の定着にも繋がる。</p>
5	
6	
7	<p>盛岡のPR素材が思い当たらないが，今後は古い街区と新しい街区，賑やかな（ごちゃごちゃした）通りと整然とした通りを計画的に整備することとし，その街づくりプロセスを内外にPRしていくべき。今あるもの，完成したもののばかりがPR素材ではないと思う。街並みの整備以外でも過程から完成（完結）までを見せていくことで，住民は期待感を持って住み続けるのと思うし，観光にしてもリピーターができると思う。何よりも行政としての取り組む姿勢と成果が分かりやすいと思う。</p>

●施策の柱 VII 快適な都市機能

施策	内容
7	<p>「住みたい、訪れたい、住み続けたいまち」には、今後富裕層の高齢化した人口が増える と想定すべきである。「エコなまちづくり」のモデル都市になることをPRする。</p> <p>①歩行者・自転車のネットワークの構築を最優先し、自動車交通に依存しない都市空間経営 を発展させる（バリアフリーネットワーク、自転車ネットワークの構築、環境配慮型自 動車への転換、超小型自動車・モビリティへ対応した環境整備）。</p> <p>②ICTとの連携実現を将来目標にし、地域住民～隣接都市、市町村～来外者に分かりや すい都市空間の整備をする（公共サイン計画により、ユニバーサルデザイン化、位置情報 を活用できる施設を配置し、市内各所に「憩える」場所の設置・連携）。</p> <p>③中心市街地では都市計画の柔軟な運用方法を導入し、地域特性を活かせる手法を研究、 開発、実践していくまちであることを表明する（首都圏都市とは、全く異なる都市空間形 成、都市経営手法の導入、歴史・文化を維持しつつも、快適性、回遊性、安全性の高いま ちに）。</p> <p>盛岡のPR素材が思い当たらないが、今後は古い街区と新しい街区、賑やかな（ごちゃご ちゃした）通りと整然とした通りを計画的に整備することとし、その街づくりプロセスを 内外にPRしていくべき。今あるもの、完成したものばかりがPR素材ではないと思う。 街並みの整備以外でも過程から完成（完結）までを見せていくことで、住民は期待感 を持って住み続けるのと思うし、観光にしてもリピーターができると思う。何よりも行政と しての取り組む姿勢と成果が分かりやすいと思う。</p> <p>市街化を推進し、商店街の再構築、街並み整備を行う。</p> <p>小岩井農場の土地を会社側と活用する。昔の様にサラブレッドを育成し、JRAを呼び、 競馬場を活用する。西仙北太田地区を住宅、工場誘致用地として整備して地元の人間の固 定化を図る。</p>
8	<p>首都圏と比較すると、市内のアクセスの悪さが指摘されるので市がレンタル自転車を用意 したり、100円バスの路線拡充等すれば観光客に便利でやさしいまちになると思う。</p> <p>震災で実証された強固な地盤の上に建設された都市、整備されたインフラ・交通網等を強 くPRし、企業ランチの誘導や安全な観光地としての集客を行う。これらをブランド化 して「盛岡ファン」を作り、税収、人口増を達成する。</p> <p>信号の間隔を短縮したほうが、歩く人や車の動きが活発になると思う。</p> <p>国道バイパス以外は全て一方通行とする。自転車優先とし、自転車無料貸し出しを行う。</p> <p>地域の結びつきや充実した生活を実感できるよう、車に頼らない公共バスと歩行者に優し い道路の整備を期待。</p> <p>市民の足としての「でんでんむし」など公共交通の活用を推進する。</p> <p>沿岸への交通網の整備等、県内の交通網を整備すれば観光客の増加に繋がる。</p> <p>盛岡駅前の混雑を解消する。</p> <p>幹線以外の道路整備。</p> <p>盛岡駅の改札をすっきりと分かりやすくしてほしい。</p> <p>交通の要衝であること（東北新幹線、東北縦貫自動車道）をPRする。</p> <p>気象条件が厳しく、公共交通機関が発達していないため、高齢者には住みにくい。高齢者 が一人でも暮らしていける盛岡であれば、どんな世代にも暮らしやすくなるのでは。</p>

●施策の柱 VIII 信頼される質の高い行政

施策	内容
1	震災で実証された強固な地盤の上に建設された都市，整備されたインフラ・交通網等を強くPRし，企業ブランチの誘導や安全な観光地としての集客を行う。これらをブランド化して「盛岡ファン」を作り，税収，人口増を達成する。
2	「住みたい，訪れたい，住み続けたいまち」には，今後富裕層の高齢化した人口が増えると思定すべきである。
3	<p>文化伝統について全国への情報発信に力を入れる。</p> <p>広報を工夫し，歴史的な面をもっとPRしてほしい。</p> <p>他都市とは違った東北のまちのPR活動。</p> <p>目標：人口増，経済の向上。テーマ：少々お金がなくても安心安全。物欲にあまり囚われない環境，雰囲気を作りPRする。盛岡に来ると価値観が変わる気がするなど，人の心に訴えるような情報発信をする。</p> <p>他都市で活躍している盛岡出身者をバックアップし，盛岡の名を高めるようにしてはどうか。</p> <p>盛岡市は清流と山に囲まれたまちである。他都市では見受けられない自然豊かな「緑の市」を目指す。上の橋・中の橋・下の橋区域を再開発し，まちのコアとして「経済中心」より「自然中心」の生活環境にやさしいまちづくりを。教育環境（人），自然環境を打ち出す（物），情報発信（金）により，「人が寄り合い集まり魅力ある街」に。</p> <p>市外の人に対して住みやすい環境（都会の便利さ快適さ・自然の豊かさ心地よさ・盛岡ならではの魅力）をアピール。</p> <p>盛岡らしさ（ブランド）の創出とPR（優れたデザイナーを参加させたり，女性・若者・外国人の感性を活かし，新商品を開発・提案。異業種・業態の融合によるトータルな盛岡らしさの提案。地元・全国・海外での盛岡らしさをPRするイベントの開催。事業者・ベンチャーに対する支援等。）。</p> <p>岩手県，北東北の中心としての役割・機能の発揮とPR（震災復興におけるリーダー・サポートの役割。北東北の中心として，三県の連携をはかり，市内外からの事業者・企業・従事者の増加を目指す。）。</p> <p>中津川は，「県庁所在地を流れる日本一の清流」を目指し，全国に発信する。「全国中津川サミット」（中津川の地名，河川を有する市町村首長を集めての清流サミット）の開催，「盛岡自然遺産」の認定，よ市や神子田町朝市等の市を集めて，市をあげての大市を開催する等のイベントを企画する。城下町盛岡を市の文化を通して発信する。</p> <p>盛岡のブランド化推進の取組は素晴らしいが，関心がなければこれらの情報に触れる機会はほとんどない。情報発信の名案がほしい。</p> <p>歴史ある街，文化を大切にする街，「もりおか」という響き（音）を全国に伝える。常に「もりおかの〇〇」という言葉を発信していく。</p>
4	
5	
6	<p>盛岡市だけではなく，広域的な地域づくりが必要。人口30万人では，やれることに限界がある。</p> <p>広域連携を進め，交通網の整備や流通基地機能の充実と，教育・医学・福祉等の面で他を大幅に上回る環境づくりが必要。</p>

●施策の柱 VIII 信頼される質の高い行政

施策	内容
6	将来に向け「目玉を作ること」。既成概念に捉われず、総花的な施策ではなく大胆な取組をすべき。例えば、近隣市町村と連携し、シナジー効果を生み出すまちづくり、安心して子育てができるまちづくりなど。

●その他（市政関連、アンケートに関する意見など）

内容
近隣町村との友好政策を進め、「合併推進」に努めるべき。庁内に対策チームを新設するくらいの覚悟が必要。
岩手がふるさとで良かったと思っています。
東北ではなく日本全体，世界を比較基準にすべき。
人情に厚い一方で，他県には排他的な感がある。
広く協力を得る体制作りが必須。
各県に比べ物価が高い。品質は優れているが消費力，宣伝力に期待します。
オープンで明るい盛岡市に。
ふるさと納税をもっと積極的に進展させるべき。一度納税した人に市長が一文を添えて毎年納付書を送付する。
岩手のイメージは「温かい人」。その温かい人間継承こそまちづくりの土台となる。
第三者であるたとえば著名な作家や芸能人に依頼して新聞や雑誌で紀行文を書いてもらい，市の魅力をPRする。
経済特区の申請を検討する。
国際化を目指し，イベント等を誘致，開催する。
盛岡市内に中心となり得る街並みがなく，活気がない。
岩手県交通のバスが環境，観光，見た目すべてによくない。
アンケートが実筆や無記名というのが，市役所としての形骸的な意味を感じる。また，意図が不明。
他人に対し，優しい気持ちで接する態度を奨励する。
大手都市銀行の攻略（支店を盛岡にも）も必要。
地価・家賃の高さが経済活動・企業誘致の足を引っ張っている。
中心部の小売店舗は閉店し，飲食店（特に飲み屋）ばかり目立つのは残念。街並みは民度を反映する。PRを考える前に，PRできるものを創造したり守るべきことをまずは考えるべき。
昭和の人情を残す穏やかな都市。
人情味あふれる人柄（まじめ，親切）。
岩手県の北上山地が，ILCの候補地になったことをPRする。
新たに企業を誘致することは厳しい。
滝沢市の実現は無駄で逆行。
盛岡人の仕事に対する態度がたるんでいると思う。改善が必要。観光客をがっかりさせていることも多いのではと思い，周囲の人に盛岡観光を勧めるのをやめている。
何か一つ「盛岡といえば〇〇」，「日本一〇〇な都市」という特定分野に集中投資して，市内外に広くPRできるものを育ててほしい。
北東北の拠点都市を充実・実現するため，他にはない特色を強化する必要がある。
ターゲットを明確に。それぞれのターゲットにとって「メリット」となるものを打ち出す。
土地柄を熟知した人に，一足先を見せることが大切。盛岡の地盤の良さ。

●その他（市政関連，アンケートに関する意見など）

内容
県の企業誘致委員を務めたが，総合計画を推進するときは，良き方を協力者として招くこともよい。
古くても良いものを大事にしていくという気持ちは大切に（なぜ，城下町としての町名を変更してしまったのか。）。中津川等自然環境のよさ，アクセスのよさを活用・アピールしたい。